

読む人の幸せを心に願って作る

喜びの夕ネまき 新聞 No. 644

〈内定式〉

先日、2022年4月に入社予定の新人働きさん内定式を開催しました。(ダスキンは社員のことを「傍^{はた}を楽にする人」という意味から「働きさん」と呼んでいます)

コロナ禍のためオンラインでの内定式でしたが、参加された皆さんは緊張した面持ちで話を聞き、それぞれの個性を生かした自己紹介をしてくれました。

いつもの内定式では私から皆さんへのメッセージが中心ですが、今回はひと言だけ伝え、皆さんからの質問に答える形にしました。内定者の名前が書かれた紙を箱に入れ、そこから私が取り出した10人の質問に答えました。

もちろん質問の内容を事前に聞

いていたわけではなく、これまでの生き方や仕事への取り組みなど、私の経験談を交えてそれぞれの質問に答えていきました。

内定式としてふさわしかったかどうかは分かりませんが、私から一方的に伝えたいことを話すより、皆さんの質問に私自身の言葉で話したことで、何か少しでも心に残ったのではないかと思います。

相手の話に耳を傾け、その話に沿って会話をするうちに、お互いの距離は縮まってきます。「伝える力」も大切ですが、相手の思いや考えに耳を傾けることで心が開き、自分自身の「聞く力」も養われると感じた有意義な時間でした。

株式会社ダスキん社長

山村輝治

※イラストはイメージです



佐賀県

武雄温泉楼門

1300年もの歴史がある温泉の入口に建つ楼門。釘を一本も使っていない独創的な建築物です。
※2022年1月31日まで保存修理工事が実施されています。工事期間は前後することがあります。



有明海に面する鹿島市。干潮時には日本最大の干潟が現れる



同じ雌面でも地域によって色も表情もさまざま



左右が対象になるように少しずつ調整して彫り進める



元美術教師の小森さん。満足に面を彫るには10年掛かったという



街の人々に愛される
あうんの鬼面

浮立面

災いを招かぬ雄面と
幸せを呼び込む雌面

佐賀県南西部に位置し、酒蔵や茅葺き屋根の民家など、今もなお江戸時代の街の面影が残る鹿島市。ここでは毎年秋になると、七浦地区を中心とする25の地区で佐賀県を代表する民俗芸能「面浮立」が行われます。恵みの雨や五穀豊穡を願って、面長で迫力のある鬼面をかぶった踊り手が笛や太鼓、かねのリズムに合わせて勇壮に踊る神事です。

その際にかぶる面が、浮立面。あうんの面相が対になって

ため、なかには明治時代の面が現役で使われていることもあるのだとか。

また、鹿島では浮立面を魔よけとして玄関や床の間に飾る風習もあり、木目が美しく木の香りが良い白木彫りは、新築祝いや還暦祝いなどに贈られることが多いそうです。

自分だけの
鬼面をかぶり
子どもたちが舞い踊る

浮立面には厳密な設計図がなく、作り方は職人技によって受け継がれています。素材は地元のスノキを使うことが多く、丸太を直方体に切り取った後は全て記憶と経験が頼り。全体の輪郭を想像しながら、舌、鼻、眉、目と順番にノミを使って荒削りし、細かなところは何本もの彫刻刀を使い分けながら仕上げていきます。「どんなにベテランでも削ってみないと分からない部分があって、木目が良くないと途中でやめて別の木で彫り直します」と、小森さん。また、一度彫ってしまうと後から直すことが出来ないため、木と向き合う表情は真剣そのものです。白木彫りが完成した後、面浮立で踊り手がかぶるものはさらに漆を塗り重ね、雄雌ともに基本は黒色に仕上げられます。鹿島市では、小学3・4年生になると運動会で面浮立を踊るのが恒例行事です。その際にかぶるお面は、自分たちの手作り。



右が口を開けた雌面で「あ」、左が口を閉じ角が立派な雄面で「うん」

おり、上歯で下唇を噛み、角が長く、額にU字のしわがあるのが「雄面」、大きく口を開けて角がほとんどなく、額にV字のしわがあるのが「雌面」です。お面は踊りやすいように驚くほど軽く、かぶった際には大きな鼻の穴から前が見えるようになっています。

「浮立面は地区によって表情が異なり、舌を出したもののや鼻が大きいものなど、それぞれに特徴があります。面を見ればどの地区のものかすぐ分かるんですよ」と教えてくれたのは、浮立面制作の伝承者である小森恵司さん。代々受け継がれる面を大切に修理・補修している

「僕が子どものころは厚紙に描いたお面をかぶっていました。愛着を持ってほしいという思いもあつて立体的な浮立面を作れるようにしました」と、小森さんが各学校に赴いて子どもたちに浮立面作りを教えているのです。子どもたちは紙粘土を型に貼り付けて乾燥させた後、着色して自分だけのお面を作っていきます。怖い形相の鬼面ですが、自らの手で作った分、愛着を持つ子どもたちは多く、運動会の後は多くの家庭で飾られるのだとか。

また小森さんの工房では一般向けにも木板での着色体験を行っているほか、鹿島の土産物やお菓子などにモチーフとして登場するなど、浮立面は街を代表する顔としても親しまれています。

五穀豊穡祈願や魔よけの象徴として、愛され続ける浮立面。あうんの鬼たちは今日も人々が健やかに暮らせるように、ごみを利かせています。



浮立面のふるさと
佐賀県鹿島市

佐賀県南西部に位置し、有明海に面する鹿島市。毎年、干潮時の干潟を舞台に行われるスポーツの祭典・ガタリンピックでは大人も子どもも泥だらけになって盛り上がります。

台所の相談室

季節を感じる、年に一度の伝統行事。子どもの記憶に残るものだから、思い出も食卓も彩れるようなアレンジ自在のレシピを伺いました。

FILE 27

食材を身近に感じられれば「好き」につながることも。

恒例になっています。

小さな子どもたちにも魚を食べしてほしい、好きになってほしい。私もそう思いながら子どもたちへの魚レシピを考えてきました。特にお悩みにある煮付けは骨があつて食べにくい、生臭さを感じるなどの声をよく聞きます。苦手意識からそういう意見が出るのでしょうか。ならば、洋風な味付けはどうかと、オイル煮を作りました。これは一度作れば日持ちもしますし、パンに挟んでサンドイッチにしたり、野菜と合わせてサラダにしたりすると、ぐつと食べやすくなり、好評です。

オイル煮は魚の生臭さを取るために香りやうまみのあるにんにく、フレッシュハーブ、オリーブオイルを加えて仕上げます。イメージはツナ缶。ツナはまぐろやカツオで作りますが、安価で手に入りやすいイワシは火通りも早いので、時短料理でもあるんですよ。

イワシを子どもたちと一緒に手開きにして作れば、魚を身近に感じて興味を持ってくれるかも。友人のお子さんがそうでした。魚は苦手と言っていたけれど、小魚をさばいたり、釣りを楽しんだりするうちに一気に魚好きになって、家へ遊びに来る時は珍しい地魚をさばいてみたいと、一緒に市場へ行くのが



ひだかずを
飛田和緒さん

料理家。1964年、東京都生まれ。独自のアイデアレシピが人気。新刊の『ごはんできたよ! 今日、何作ろう!? 何食べる!? ある日の献立、つまみとおかずとごちそう、べも 一五〇品』(朝日新聞出版)をはじめ、著書多数。

今回のお悩み

最近は節分に恵方巻を食べますが、私が幼いころはイワシを食べていました。孫にも食べさせたいのですが、煮付けにすると嫌がります。子どもでもイワシをおいしく食べられる方法を教えてください。(奈良県・女性)



イワシのオイル煮



Answer Recipe

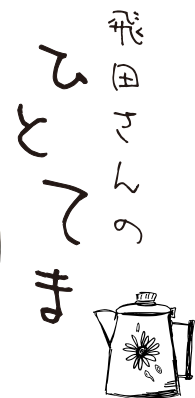
〔材料(作りやすい分量)〕

イワシ 4尾
塩 イワシの重さの1%分
オリーブオイル 適量
にんにく 2片
フレッシュハーブ、オレガノ、タイムなど... 適量

〔作り方〕

- 1 イワシは3枚おろし、または手開きにする。
- 2 水気をよく拭き取り、重さを量って1%の塩をふり、10分ほど置く。
- 3 フライパンに隙間なくイワシを並べ、浸るよりもやや少なめにオリーブオイルを入れ、薄切りにしたにんにくとお好みのハーブを散らしてふたをし、中火にかける。
- 4 沸々としてきたら火を止め、ふたをしたまま余熱で火を通す。
- 5 冷めたら保存容器にオイルごと移し、冷蔵庫で保存する。

※写真はイワシのオイル煮と合わせたスパゲッティ。にんにくとオイルをフライパンで熱し、香ばしくなってきたらゆでたスパゲッティを絡め、イワシを加える。スパゲッティのゆで汁や塩、醤油などで味を調え、仕上げにパセリを散らせば出来上がり



飛田さんの
とてま



イワシをオイルに漬けた状態で保存するので、ホーローやガラスの容器を使用するのがおすすめ。匂いや汚れが落としやすく、後々の片付けが楽チンです。冷蔵庫で保存し、オイルに浸かっていれば1週間ほど日持ちします。一緒に合わせているオイルやにんにくも、ソースやドレッシング作り、炒め物などに使ってくださいね。

台所のお悩み事をお寄せください。

お料理について気になることや、ちょっとしたお悩みを、飛田さんに相談してみませんか? お便りをお待ちしています。宛先は裏表紙をご覧ください。



母を思い浮かべて

鹿児島県奄美市 松元ひろのさん

2歳違いの妹が、胃のなかのポリープを取り除く手術を受けるため、1週間余りの入院生活を送ることになりました。そんな妹に、「亡くなった母ならきっとこうしてあげるだろうな」と思い浮かべながら、寝間着などの荷物の支度をし、退院時には「おかえり」と、赤飯を準備して迎え入れてあげました。

これから先、妹の送る日々が子どもや孫、そして最愛のご主人と一緒に、健やかでありますようにと願っています。



頼りになるお姉さんもいて、天国のお母様も安心されていると思います。

田園の冬景色

茨城県神栖市 池田みつ子さん

寒い朝のこと。犬の散歩に行こうと家を出ると、目の前に広がる田園が一面真っ白に霜をかぶっていました。枯れ草たちは日に当たってキラキラと輝きながら、じっと寒さに耐え、春を待っているかのよう。あまりにも美しい冬景色に見とれていると、向こう側に自転車で部活に向かう孫の姿が見えました。「頑張れ！」と叫んだら、孫はさっと手を上げて走って行きました。

コロナ禍で不安な毎日が続くなか、自然の美しさが心を和ませてくれて、とても清々しい気持ちになりました。



見慣れた風景も霜の美しさで別世界のよう。冬の朝ならではの美景ですね！

おしくらまんじゅう

宮城県栗原市 阿部昭子さん

今の子どもたちは「おしくらまんじゅう」を知っているでしょうか？昔は寒い日に頬を真っ赤に染めながら、皆でわいわいとはしゃいで遊んだものです。

ある冬の朝、久しぶりにおしくらまんじゅうを家の近くで見かけました。ただし、子どもたちではなく、スズメのおしくらまんじゅうです。チュンチュンと互いに押し合いながら、楽しんでいるかのように寒さをしのいでいました。

思う存分、冬の田舎を満喫してほしいものです。



かわいなおしくらまんじゅう！想像するだけで心がほっこり温まります。

【燈々無尽】

フンギリをつける

自分で、自分を甘やかしてはダメです。そんな事は、自分にはできない。とか、自分が悪いのではない、自分にはできないのだ、とか、理くつをつけて、自分が立ち上がろうとしない事は、残念です。

ひとつ、フンギリをつけてみましょう！新しい道を、希望を持って進む事です。

ダスキン創業者 鈴木清一

日本の未来は明るい

兵庫県神戸市 布上照子さん

78歳の私がショッピングカーを引きながら階段を上がっていると、「大丈夫ですか？何かお手伝いしましょうか？」と、小学1年生ぐらいの男の子が声を掛けてくれました。また別の日には、電車で小さなお子さんが席を譲ってくれたこともありました。

優しい気遣いが出来るお子さんと、その親御さんの素晴らしさに、いつも胸がいっぱいになります。

こんなに素敵なお子さんたちがいる日本の未来は明るい、私は信じています。子どもたち、本当にいつもありがとうございます。



思いやりにあふれた子どもたち。彼らが主役になる未来が今から楽しみです。

冬のシャボン玉

岐阜県羽島市 田内眞智子さん

3歳と5歳になる孫娘の子守をしていたら、家のなかでの遊びに飽きて「シャボン玉がしたい」と言い出しました。そこで、シャボン玉液を作って外へ出かけることに。長女が吹いたシャボン玉は、風に揺られて空へ高く舞い上がっていきます。まだシャボン玉をうまく吹けない次女は、地面に落ちてゆらゆらとしているシャボン玉に、「早くしないと皆遊びに行っちゃうよ」と必死に呼び掛けていました。

寒い日でしたが、肌を刺す冷たい風も、とても気持ち良く感じるひと時でした。



お孫さんたちにとってもきっと素敵な冬の思い出になったことでしょう。

自慢の歯茎

広島県広島市 石井玉江さん

コロナ禍の影響により、数カ月ぶりに歯の検診を受けに行きました。お医者さんからは異常なしと言われて、ひと安心。さらに「あなたの歯茎はとても健康で、年齢よりもずっと若いですよ。大切にしてくださいね」と、褒め言葉まで。歯茎を見せびらかして自慢したくなるぐらい、うれしい気持ちになりました。



口元を見せて思い切り笑い合える日が待ち遠しいですね。

お便り大募集！

テーマは「**おうち時間の過ごし方**」です。趣味や日課、リフレッシュ方法など、あなたの暮らしのアイデアをお聞かせください。



愛の輪通信

自分で計画を立てられる愛の輪研修は、私にとって大きなチャンスでした！



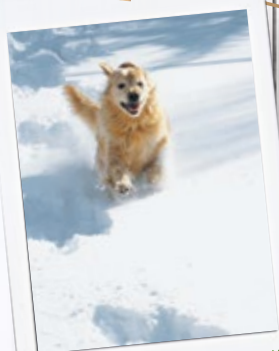
私は以前から、「ピアカウンセリング」に興味を持っていました。これは、障がいを持つ仲間（ピア）同士で自身の経験や思いを語り合い、困り事や思いを共有することで課題の解決に導く手法です。

そして次第にピアカウンセリングの発祥の地であるアメリカで、障がいのある人の長所、力、強さに着目して能力を引き出していく過程や、地域との関わり方を直に見て学びたいと強く思うように。私にとって愛の輪研修は、学びをとことん深められるチャンスでした。





読者の皆様から送りいただいた
素敵な1枚をご紹介します。



大好きな雪に大はしゃぎ!
神奈川県藤沢市 本橋 淳子さん



かわいい姫っ子をパシャリ♪
愛媛県四国中央市 石川 美香さん



赤い実が大好きなヒヨドリ
山形県村山市 佐藤 妙子さん



2月で80歳になります!
埼玉県日高市 佐藤 克世さん



仲良かごにすっぱり♪
大阪府大阪市 長尾 陽子さん



雪で作った秘密基地!
岩手県盛岡市 熊谷 明枝さん

あなたの
お便りや写真を
お寄せください。

あなたが体験したうれしかったことや、
誰かに聞いてもらいたいことなど、
身近な話題をお寄せください。
心よりお待ちしております。

送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキン広報部
「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、お名前、ご年齢、ご職業、ご住所、お電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。

- 紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真には、ささやかなお礼品をお送り致します。
- 作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、作品のご返却は致しかねますのであらかじめご了承ください。
- 本号は、2021年11~12月に制作したものです。状況によって記載内容が変更となる場合がございます。

No.419からのバックナンバーが下記の
アドレスからご覧になれます。
<https://www.duskin.co.jp/tanemaki/>



引越しのおそうじにはダスキンモップが便利!
引越しのお手続きは、担当店・Webページ
ダスキンコンタクトセンター **0120-100100** まで



株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様の個人情報はご投稿の掲載や、今後の紙面制作に利用させていただきます。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。
個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記の株式会社ダスキン コンタクトセンターまでご連絡ください。

0120-100100 www.duskin.co.jp

60-12C 2022.02 3365900